



FDK株式会社

第97期

中間報告書

2025年4月1日から2025年9月30日まで

FDK

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために
Inspiring transformation; shaping the future and creating happiness.

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第97期中間期（2025年4月1日から2025年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期は、今年度が最終年度となる中期事業計画「R2」で柱に掲げた「主力ビジネスの利益ある成長の加速」、「新規ビジネスの始動と開拓」に全社で取り組むとともに、技術VEによるコスト削減、徹底的な経費削減などのレジリエンスの強化に努めました。電池事業では高容量タイプの高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池の開発、ニッケル亜鉛電池のグリッドフリーソーラーカーポートの実証実験への採用、ニッケル水素電池における水素貯蔵タンク用高容量AB2型水素吸蔵合金の開発など販売促進および製品開発に努めました。電子事業では上期に続き、世界最小クラスの「Bluetooth® Low Energyモジュール」の電波放射性能を向上させた新製品のサンプル出荷を継続しております。また、財務体質の健全化や今後の資本政策の柔軟性および機動性を確保することを目的として、資本金、資本準備金および利益準備金の額の減少ならびに剰余金の処分を実施いたしました。

当中間期の経営成績につきましては、売上高は電池事業でリチウム電池の伸長があったものの、ニッケル水素電池および設備関連ビジネスの減少、ならびに電子事業の各種モジュールの減少と一部機種が生産終了があり、前年同期と比べ28億83百万円減の297億76百万円となりました。営業利益は資本金等の変更に伴わない外形標準課税が減額されたことによる販売費及び一般管理費の減少、電池事業での原材料価格の変動や技術VEによるコストダウン等の影響があったものの、為替影響や、電池・電子両事業での売上減により前年同期と比べ2億32百万円減の5億53百万円、経常利益は前年同期と比べ1億86百万円減の4億45百万円、親会社株主に帰属する中間純利益はアルカリ乾電池に関わる固定資産の減損損失1億88百万円の計上により、前年同期と比べ2億31百万円減の1億21百万円となりましたが、いずれも期初の想定より良化しました。

2026年3月期の配当予想につきましては、現時点では未定とさせていただきます。引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

下期以降も依然として厳しい事業環境が予想されますが、新たな筆頭株主であるSILITECH社またはPSAグループとの連携を一層強化し、様々な領域でのシナジー創出に向けた取り組みを執行することで「主力ビジネスの利益ある成長の加速」を推進してまいります。「新規ビジネスの始動と開拓」としては、ニッケル亜鉛電池の実用化に向けた取り組みを確実に推し進めるとともに、SMD対応小型全固体電池やパワーマネジメントソリューションにおける要素技術の開発も継続してまいります。

また、2025年11月に「転進支援制度の実施」を発表いたしました。当社グループは上期に引き続き外部環境変化に対するレジリエンス強化として、DXによる業務効率の向上や人材活用の最適化に向けた制度改革等の各施策の執行についても一層強化してまいります。そして、「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーにご満足いただける「And Game」の実現を目指し、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※Bluetooth®ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する商標です。



代表取締役社長

長野 良

Profile プロフィール

1961年9月7日生まれ
1985年4月 富士通(株)入社
2019年4月 当社執行役員兼務
2019年6月 当社代表取締役社長

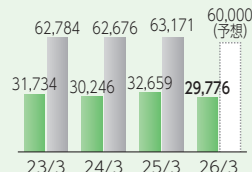
2025年12月

連結決算ハイライト

売上高

297億76百万円

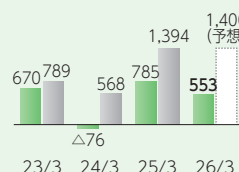
単位:百万円 ■ 中間期 ■ 通期



営業利益
又は営業損失(△)

5億53百万円

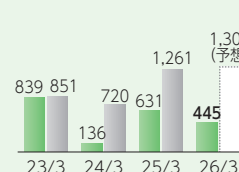
単位:百万円 ■ 中間期 ■ 通期



経常利益

4億45百万円

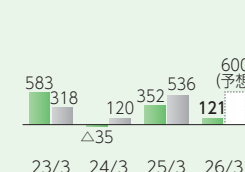
単位:百万円 ■ 中間期 ■ 通期



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は
親会社株主に帰属する中間(当期)純損失(△)

1億21百万円

単位:百万円 ■ 中間期 ■ 通期



事業別の概況

電池事業

電池事業はリチウム電池が増加しましたが、ニッケル水素電池、設備関連ビジネスやアルカリ乾電池が減少したことにより、前年同期を下回りました。

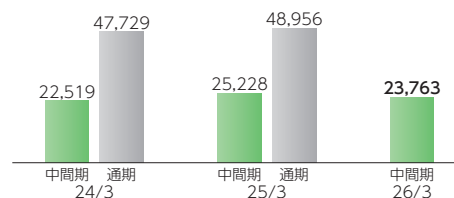
製品別につきましては、ニッケル水素電池は、海外の市販・工業用途向けが減少したことにより、前年同期を下回りました。設備関連ビジネスは、前年度まで続いた旺盛な自動車関連設備需要が今年度に入り一服したことにより、前年同期を下回りました。リチウム電池は、国内のセキュリティ・スマートメータ・住宅用警報器用途向けが増加したことにより、前年同期を上回りました。アルカリ乾電池は、前年同期を下回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期と比べ14億65百万円減の237億63百万円となりました。

売上高構成比

79.8%
(23,763百万円)

売上高 単位:百万円



電子事業

電子事業はトナーが増加しましたが、各種モジュールやスイッチング電源が減少したことにより、前年同期を下回りました。

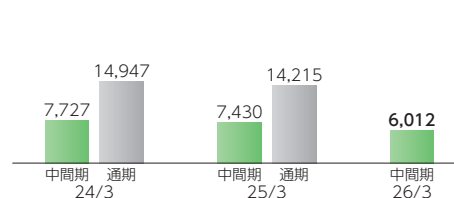
製品別につきましては、各種モジュールは、モビリティ・タブレット用途向けでの減少に加え、液晶ディスプレイ用途の選択と集中による一部機種生産終了により、下回りました。スイッチング電源は、半導体製造装置用途向けが減少したことにより、前年同期を下回りました。トナーは、前年同期を上回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期と比べ14億18百万円減の60億12百万円となりました。

売上高構成比

20.2%
(6,012百万円)

売上高 単位:百万円



アルカリ乾電池



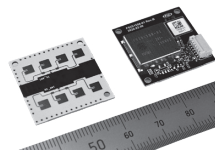
充電式電池



ニッケル水素電池



リチウム電池



移動体検知モジュール



トナー

トピックス

■ 高容量タイプの高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池「CR17500EX」を開発

当社は、高容量タイプの高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池「CR17500EX」を開発し、今年度下期から量産開始いたします。

主力の高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池をご使用のお客様からの電池の長寿命・高容量化のご要望に応えるため、電池構造および使用部材を徹底的に見直すことにより、当社従来モデル「CR17500EP」より17%容量を向上させた「CR17500EX」を開発いたしました。この容量向上により、搭載機器で従来よりも長時間の使用や組電池仕様の使用本数削減が可能となります。

当社鳥取工場が開発・製造するリチウム電池は、国内外で各種スマートメータ関連機器、IoT機器、セキュリティ機器、火災警報器、医療機器、車載機器など幅広い分野でお使いいただいております。



二酸化マンガンリチウム一次電池「CR17500EX」

■ 水素貯蔵タンク用高容量AB2型水素吸蔵合金を開発

当社は、水素エネルギー社会の実現に向けた水素貯蔵タンク用の新材料として、高容量AB2型水素吸蔵合金を新たに開発いたしました。

水素吸蔵合金は、一定量の水素を貯蔵する体積が、液体水素に比べ約1/2、高圧水素ガスに比べ約1/7になり、圧倒的な体積効率を有します。また、常温常圧に近い状態で水素を安定して貯蔵できるため、来るべき水素社会を支える重要製品として注目されております。

電池用途で主流であるAB5型水素吸蔵合金は、活性化(*1)の容易性や反応速度の速さ、リサイクルの容易性に優れる反面、重量当たりの水素貯蔵量が少ないため、より多くの貯蔵量が望まれるタンク用途には適していません。さらに、AB5型以外の水素貯蔵量に優れる水素吸蔵合金は、使用中に水素放出圧力が大きく低下するものや、活性化(*1)プロセスが煩雑なものなど、使い勝手に問題がありました。

これらのニーズと問題に対応するために、当社は水素貯蔵量の体積効率が液体水素の約2倍、高圧水素ガスの約7倍、重量当たりの水素貯蔵量がAB5型比で約20%向上などの特長を有する水素貯蔵タンク用として使い勝手の良い高容量AB2型水素吸蔵合金を開発いたしました。

*1: 「活性化」とは、水素を効率的に吸蔵・放出させるために行なう処理のことです。



AB2型水素吸蔵合金

4月

5月

6月

7月

8月

9月

■ 当社のニッケル亜鉛電池がエクシオグループのグリッドフリーソーラーカーポートの実証実験に採用

当社は、エクシオグループ株式会社（以下「エクシオグループ」）が神奈川県藤沢市のエクシオグループ湘南総合技術センタに建設したパワコンレスシステム(*1)を用いたグリッドフリーソーラーカーポートの実証実験(*2)に参画いたしました。

エクシオグループが実証実験を行なうグリッドフリーソーラーカーポートは、系統電力に接続しない独立型システムのため、停電時にはシステムを制御する補器にバックアップ電源（一般的に鉛蓄電池）が必要となりますが、当社のニッケル亜鉛電池は鉛蓄電池に比べて軽量で、環境負荷が少なく、鉛蓄電池と同じ充電方式で使いやすいという特長を持つことから、鉛蓄電池の代替として採用されました。今後、エクシオグループと共同で、屋外設置という厳しい環境下で、各種データを収集・蓄積し、実用化に向けて取り組んでまいります。

ニッケル亜鉛電池は、ニッケル水素電池の負極材料（水素吸蔵合金）を亜鉛化合物に置き換えた電池で、長年培ってきたニッケル水素電池の正極技術や構造技術、アルカリ乾電池の亜鉛負極技術を適用した二次電池です。当社は、今回の実証実験で収集・蓄積されたデータの活用とともに、さまざまな用途のサンプル出荷、製品特性の向上、長期評価試験など、量産化に向けた取り組みを進めてまいります。

*1: 一般的な太陽光発電システムの発電や蓄電池の充放電の制御で用いられるパワーコンディショナを使わないシステム

*2: エクシオグループのニュースリリース

(<https://www.exeo.co.jp/news/7313.html>)



グリッドフリーソーラーカーポート



ニッケル亜鉛電池ユニット

■ 連結財務の概況

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 (2025年9月30日現在)	前期末 (2025年3月31日現在)
資産の部		
I 流動資産 1	31,831	31,734
II 固定資産	14,877	14,606
（有形固定資産）	14,036	13,888
（無形固定資産）	327	329
（投資その他の資産）	513	387
資産合計	46,708	46,340
負債の部		
I 流動負債	28,788	28,879
II 固定負債	927	1,046
負債合計	29,715	29,925
純資産の部		
I 株主資本	13,547	13,425
資本金	3,000	31,709
資本剰余金	3,045	26,225
利益剰余金	7,553	△44,456
自己株式	△51	△51
II その他の包括利益累計額	3,333	2,877
その他有価証券評価差額金	47	38
為替換算調整勘定	2,914	2,488
退職給付に係る調整累計額	370	350
III 非支配株主持分	112	111
純資産合計 2	16,992	16,414
負債純資産合計	46,708	46,340

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ97百万円（0.3%）増の318億31百万円となりました。その主な要因は、原材料及び貯蔵品などの棚卸資産や未収消費税などのその他流動資産が減少した一方、前期での早期資金化実施による影響で受取手形及び売掛金が12億97百万円増加したことによるものです。

2 純資産合計

純資産合計は、前期末に比べ5億78百万円（3.5%）増の169億92百万円となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が1億21百万円、為替換算調整勘定が4億26百万円、それぞれ増加したことによるものです。また、当中間期において、資本金、資本準備金及び利益準備金の額を減少させ、繰越利益剰余金に振り替えることで、欠損の補填に充当しました。

■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2025年4月1日から 2025年9月30日まで)	前中間期 (2024年4月1日から 2024年9月30日まで)
売上高	29,776	32,659
売上原価	24,469	26,891
売上総利益	5,307	5,768
販売費及び一般管理費	4,753	4,982
営業利益	553	785
営業外収益	120	124
営業外費用	228	278
経常利益	445	631
特別損失	188	140
税金等調整前中間純利益	256	491
法人税、住民税及び事業税	187	194
法人税等調整額	△58	△59
中間純利益	126	356
非支配株主に帰属する中間純利益	5	3
親会社株主に帰属する中間純利益 3	121	352

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2025年4月1日から 2025年9月30日まで)	前中間期 (2024年4月1日から 2024年9月30日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー 4	362	678
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,151	△1,271
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	582	305
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	146	△123
V 現金及び現金同等物の増減額	△58	△410
VI 現金及び現金同等物の期首残高	4,600	3,715
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	4,541	3,305

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

3 親会社株主に帰属する中間純利益

原材料価格の変動や資本金等の変更に伴う外形標準課税減額による利益増があったものの、電子事業での売上減や為替による利益減により、営業利益は前年同期に比べ2億32百万円減の5億53百万円となりました。また、アルカリ乾電池に関わる固定資産の減損損失の計上により、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期に比べ2億31百万円減の1億21百万円となりました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加9億97百万円や仕入債務の減少9億42百万円などによる資金の減少はありましたが、減価償却費の計上11億45百万円や未収消費税の減少6億28百万円、税金等調整前中間純利益2億56百万円などにより3億62百万円の資金増加となりました。

FDKグループの概要

2025年9月30日現在

FDKグループは、各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売を主な事業としております。

FDKグループの主要拠点

※工場・生産会社の [] 内は、主要生産品目です。

● 当 社

本 社

◆東京都港区港南一丁目6番41号

工 場

A 湖西工場 [スイッチング電源、トナー]

B 高崎工場 [ニッケル水素電池、蓄電システム]

C 鳥取工場 [リチウム電池]

D 鷺津工場 [アルカリ乾電池]

営 業 所

① 札幌営業所

② 仙台営業所

③ 首都圏営業所

④ 名古屋営業所

⑤ 大阪営業所

⑥ 広島営業所

⑦ 福岡営業所

● 当社グループ

国内生産会社

① (株) FDKエンジニアリング [各種製造設備]

海外生産会社

① XIAMEN FDK CORPORATION

中国・廈門 [スイッチング電源、各種モジュール、
ニッケル水素電池・リチウム電池のパック電池]

② FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.

台湾・桃園 [各種モジュール]

③ BAOTOU FDK CO.,LTD.

中国・包頭 [電池材料、希土合金]

海外販売会社

FDK AMERICA, INC.

① 米国・サンタクララ

② 米国・ダラス

FDK SINGAPORE PTE LTD

③ シンガポール

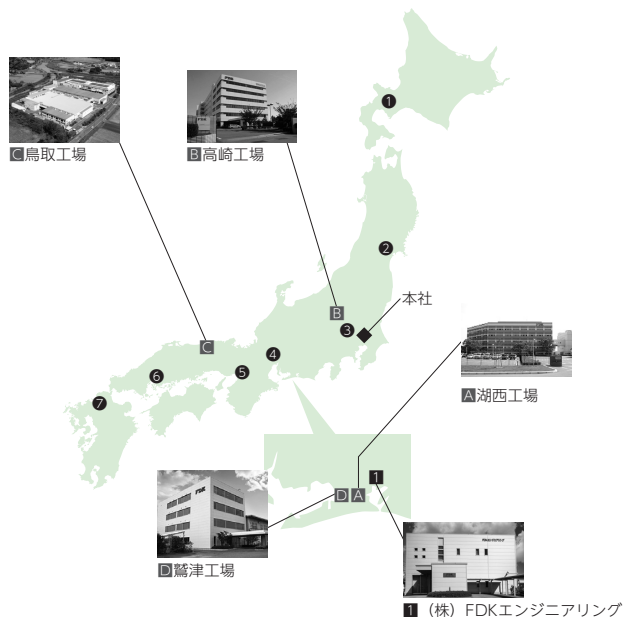
(ほか、連結子会社1社)

FDK HONG KONG LTD.

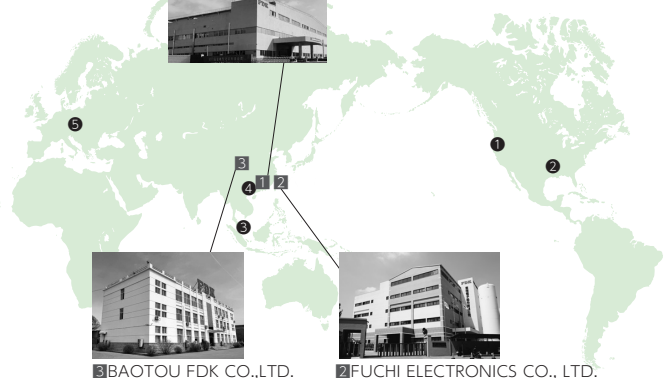
④ 中国・香港

FDK ELECTRONICS GMBH

⑤ ドイツ・ミュンヘン



① XIAMEN FDK CORPORATION



③ BAOTOU FDK CO.,LTD.

② FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.

会社および株式の概要 2025年9月30日現在

■商号 FDK株式会社

(英文社名：FDK CORPORATION)

■設立 1950年(昭和25年)2月7日

■資本金 3,000,000,000円

■従業員数 1,554名 [FDKグループ：2,479名]

■主要製品

電池事業 アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、各種製造設備

電子事業 スwitching電源、トナー、各種モジュール

■役員

●取締役

地位	氏名
代表取締役社長	長野 良
取締役	平野 芳晴
取締役	酒向 潤一郎
取締役	徐 幼珍
監査等委員である取締役	栗津 瑞恵
監査等委員である取締役	陳 怡光
監査等委員である取締役	山崎 頼良

(注) 酒向 潤一郎氏、徐 幼珍氏、栗津 瑞恵氏、陳 怡光氏、山崎 頼良氏は、会社法2条第15号に定める社外取締役であります。

■発行可能株式総数

株式の種類	発行可能株式総数
普通株式	51,000,000株

■発行済株式の総数および株主数

株式の種類	発行済株式の総数	株主数(前期末比)
普通株式	34,536,302株	15,808名(997名減)

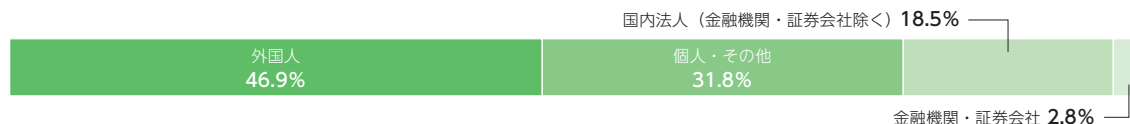
■大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION	15,527	45.00
富士通株式会社	6,071	17.60
FDK取引先持株会	159	0.46
BARCLAYS CAPITAL SECURITIES LIMITED	156	0.45
株式会社SBI証券	144	0.42
田中 隆士	140	0.41
JPMorgan証券株式会社	137	0.40
田中 章吾	125	0.36
上田八木短資株式会社	120	0.35
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 510794	112	0.33

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てにより表示しております。

2. 持株比率は、自己株式(31,203株)を控除して計算しております。

■所有者別株式数分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	(電話照会先)	電話 0120-232-711 (通話料無料)
定時株主総会	毎年6月	公告方法	電子公告
議決権の基準日	毎年3月31日		当社は公告を下記ホームページに掲載しております。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		https://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行ないます。
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

株式が「特別口座」に眠っていませんか？

1. 「特別口座」について

2009年1月に法令により株券の電子化が実施されましたが、その際、証券会社の口座に預けられていなかった当社株式については、現在、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」で管理されています。制度上、「特別口座」に管理されているままでは、証券市場で株式を売買することができない等の制約がございます。ご所有の株式が「特別口座」で管理されている株主様におかれましては、証券口座への振替をお願いいたします。

お心当たりございませんか？

- お手元に株券がある
(証券会社に株式を預けていない)
- 配当金のご連絡通知に記載されている株式数と、証券会社に預けている株式数が一致しない

お心当たり
ございましたら

株式が
「特別口座」で
管理されている
可能性が
ございます

◆ ご所有の株式が「特別口座」で管理されているかご不明な株主様は、三菱UFJ信託銀行証券代行部 ☎0120-232-711) までお問い合わせください。
(受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9:00～17:00)

2. 「特別口座」にある株式の証券口座への振替方法

証券会社に口座を開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設いただく必要はありません。

三菱UFJ信託銀行に振替用の請求用紙 「口座振替申請書」を請求する。

請求用紙に必要事項を記入・押印して 三菱UFJ信託銀行に送付する。

これで手続きは完了です。
証券会社の口座に株式が振替われます。

単元未満株式の買取請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、単元未満株式(1～99株)については、市場で売買することができませんが、当社に対して買取請求を行なうことができます。

● 買取制度の例 (60株ご所有の場合)

現在ご所有の単元未満株式

60株

(単元未満株式)

買取請求制度

当社株式60株を市場価格で当社へ売却し、
代金を受領する。

60株

(単元未満株式)

¥

¥

¥

当社ホームページ

<https://www.fdk.co.jp/>

当社IR情報

<https://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html>

